

1 単元名 「森の動物たちの気持ちになって手紙を書こう」—『わすれられないおくりもの』—

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第3学年及び第4学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

c 「読むこと」(1)

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

本単元では、「わすれられないおくりもの」を読み、「登場人物への手紙を書く」という言語活動を設定した。登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを叙述を基に想像して読む力をつけさせることで、より作品を深く考えることができる。深く考えたことを基に、登場人物になりきり最後の場面でもぐらがあなぐまに対してどのような言葉をかけたのか「ありがとう」という言葉の続きを想像する言語活動と、他の動物たちであればどのような言葉をあなぐまにかけたのか、登場人物の気持ちになって手紙を書く言語活動を設定した。

この物語は、みんなに慕われ、愛されたあなぐまと、その友達との心のふれあいが書かれている。ここに登場するあなぐまは、たいそう年をとっている。賢くて物知りであるため、他の動物たちからも頼りにされている存在である。そのようなあなぐまが、死んでしまって悲しみにくれるが、春の訪れとともに悲しみを乗り越えていく。動物たちは、誰に対しても優しく接してくれた思い出を語り合うことで、あなぐまに対して尊敬の気持ちを持ち、残してくれたおくりもの(知恵や工夫)が宝物であると感謝をし、互いに助け合って生きていく素晴らしさに気づくと考える。

第1次では、全文を読み、登場人物の様子やあらすじを理解する。第2次では、物語を読んでいく中で出てきた問いをもとに、登場人物の行動や気持ちの変化を読み取る。中心人物であるもぐらが、あなぐまの死とどのように向き合い、どのように乗り越えたのか考えさせたい。第3次では、読みを深めた後に、もぐらがあなぐまに対して感謝の気持ちを伝えるとしたらどのような言葉をかけるのか考える。もぐら以外の森の動物たちであればどのように感謝の気持ちを伝えるのか手紙を書き、読みを深められるようにしていきたい。

(2) 単元の観点別目標

知識及び技能：主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。

思考力、判断力、表現力等：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。

学びに向かう力、人間性等：進んで登場人物の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、登場人物の言葉を考えようとしている。

3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

④ 自ら「問い」を発見し、解決していく言語活動を設定する。

第1次での音読や場面ごとに事実を読み解いていく力、登場人物の関係性を通して心に残ったことや疑問点を整理していく。また、「問い」について考えを深める際には、掲示物を使って場面を振り返ったり相互に関連付けたりすることで、物語全体から根拠を見つけて深く読むことができるようにする。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

伝え合い活動を活発にするために、意識させたい視点を明確に児童に提示する。誰に伝えるのか、何のために伝えるのか、どんな方法で伝えるのか、しっかりと伝えることができたか（振り返り）を確認する。伝え合いの視点をもつことで、自分の伝えたい内容をより明確にできると同時に、相手の意見を聞こうとする意欲につながるようにする。

4 指導計画（全9時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
第一次	1	・単元の見通しをもち、作品に関心をもつことができる。	・新出漢字の読み方や語句の意味を確認する。 ・「わすれられないおくりもの」の読み聞かせを聞く。 評 作品に関心をもち、学習の見通しをもっている。 【思】
	2	・場面の様子を想像しながら読み、「お話の地図」を作ることができる。	・挿絵をもとに、「お話の地図」を作り、『わすれられないおくりもの』のあらすじを捉える。 評 あらすじを捉えている。 【思】（ワークシート）
	3	・登場人物の様子を捉えることができる。	・森の動物たちとあなぐまとの思い出を表にまとめることができる。 評 登場人物の様子を捉えている。 【思】（ワークシート）
	4	・心に残ったところや気になるところを見つけ、問いを考えることができる。	・心に残った場面や不思議に思ったことを見つけ、自分の考えを書くことができる。 ・何を根拠に書いたのか考えを伝え合い、場面ごとにまとめる。 評 心に残った場面について、考えを書いている。 【思】（ワークシート）
第二次	5	・他の動物たちの悲しみについて、叙述をもとに、考えを深めることができる。	・叙述をもとにあなぐまの死がどれほど動物たちにとって悲しいものだったのか考える。 評 動物たちの悲しみの叙述や挿絵をもとに、悲しみの深さを想像し、動物たちの悲しみを読むことができる。 【思】（ワークシート、発言）
	6	・あなぐまの人柄や気持ち、もぐらの気持ちの変化について「おくりもの」に関わらせながら、叙述をもとに想像して読むことができる。	・あなぐまの死の後の悲しみと春になり悲しみを乗り越えた後のもぐらの気持ちの変化を確認する。 ・もぐらの気持ちがどうして変化したのか考え、話し合う。 評 あなぐまの人柄や気持ち、もぐらの気持ちの変化について「おくりもの」に関わらせながら、叙述をもとに想像しながら読むことができる。 【思】（ワークシート、発言）

第三次	7	・登場人物の気持ちの変化を想像し、考えを書くことができる。	・「ありがとう、あなぐまさん。」のあとに、もぐらはどのような言葉を続けたかを考える。 ・自分の意見をグループで伝え合う。 評 登場人物の気持ちになって続きの言葉を考え、伝え合い、考えを深めることができる。【思】(ワークシート, 発言)
	8	・登場人物の気持ちの変化を想像し、考えを手紙に書くことができる。	・どのような物語だったかを確認する。 ・他の動物ならあなぐまにどのようなお礼の言葉を言ったのか考え、手紙を書く。 ・手紙を読み合い、考えを深める。 評 登場人物の気持ちの変化について、叙述をもとに考えを深め、手紙を書くことができる。【思】(ワークシート)
	9	・学習の振り返りをする。	・「おくりもの」とはどのようなものなのか考える。 ・「わすれられないおくりもの」とは何か考える。 評 叙述を基に、「わすれられないおくりもの」についての考えを深めている。【思】(ワークシート)

5 本時の指導 (6 / 9)

(1) 目標

- ・あなぐまが死んでしまった場面と、物語の終わりの場面で、もぐらの気持ちがどのように変化したか、比べて考えを話し合うことができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合う活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広めたり深めたりできるような伝え合いの活動を授業の中に設定する。

もぐらの気持ちがどのように変化したのか季節の移り変わりや、森のみんなで語り合うことに着目し、グループで意見を伝え合うことで、次第に深い悲しみが「わすれられないおくりもの」へと変化していったことに気づき、もぐらの気持ちの変化を読み取ることができると考えられる。

(3) 展開

◎印は、仮説との関連

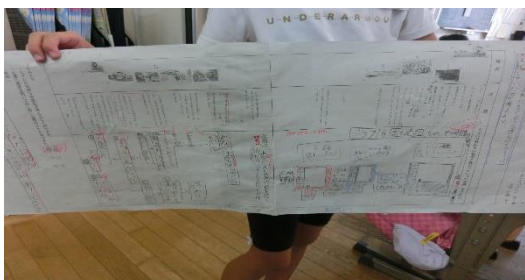
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 実 際 の 児 童 の 様 子	時配 <small>○は実際に かった時間</small>
1 本時のめあてを知る。 あなぐまが死を知ったもぐらの気持ちがどのように変化していったのか考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考えを前時にもたせておいた。 ・あなぐまの死を知った直後の挿絵(毛布を濡らしている挿絵)と、あなぐまにお礼を言っているもぐらの挿絵を比べて、どのように気持ちが変わったのかをおさえた。 ・「やりきれないほど悲しい」→「ありがとう、あなぐまさん。」の言葉からももぐらの気持ちの変化をおさえた。 	3 (3)

- 2 グループで順番に考えを伝え合う。
- ・もぐらの気持ちの変化を伝え合う。
 - ・理由や質問・意見を言いながら、グループで考えをまとめる。
 - ・悲しみが消えていった理由も考える。
 - ・黄色の色紙にもぐらの気持ち、青色の紙にあなぐまともぐらの関係を書く。

<反応例>

- ・最初は、ショックで受け入れられない。
- ・冬は雪で外に出られないから悲しみも大きくなる。
- ・あなぐまさんとの楽しかった思い出が次々と思い出され、悲しみが大きくなる。
- ・思い出になるまで時間がかかった。
- ・春になると気持ちが和らぎ、森のみんなが集まって話すことで悲しみが少しずつ小さくなる。
- ・あなぐまさんは自分たちにどうしてほしいか考えるようになる。



- ◎変化していった理由を添えて話すよう指示した。
- ・相手の考えを最後まで聞いたり、相手の考えにつなげて話したりするように指導した。
- ◎教科書の挿絵や文章からも考えられるよう指導した。

評 あなぐまの人柄や気持ち、もぐらの気持ちの変化について、「おくりもの」に関わらせながら叙述をもとに想像して読んでいる。 【思】(ワークシート, 発言)

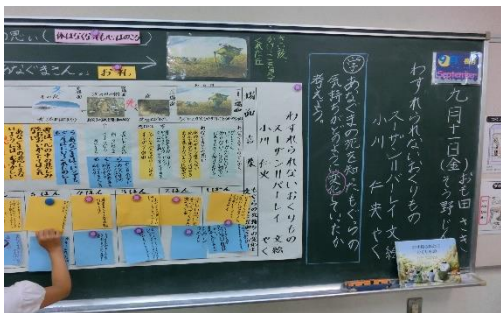
- 手 掲示資料や人物関係図などからも考えられるよう教室に資料を掲示しておいた。
- 手 グループの話し合いが難しい児童には、ワークシートを見ながら読んだり、一緒に声を出して伝えたりするよう支援した。
- 手 書くことに時間がかかる児童には、大切な言葉だけ書いたり、文章を読んだりしながら支援した。

- ・もぐらは、最初はかなしかったけど、もぐらはあなぐまが自分のことで悲しまれることが嫌だったと思うからお礼を言ったと思う。
- ・一生消えない傷と一生消えない思い出ではないか。
- ・あなぐまの思い出がもぐらの悲しみを回復させた。
- ・あなぐまとの思い出は、あなぐまからの大切なプレゼントではないか。
- ・あなぐまがずっと見ていてくれる。
- ・ゆたかさとはあなぐまがいなくなった後でも平和な事であり、みんなで仲良くしていくために残してくれたものの。

- 3 全体で各グループの考えを伝え合う。
- ・話し方は、書いたものを提示しながら読んだり、質問を受けたりして伝える。
 - ・聞き方は、自分の意見や、グループの意見と比べながら、似ているところや質問してみたいことを考えながら聞く。

<反応例>

- ・「最初は、やりきれないほど悲しみは深かったけど、冬から春にかけて森のみんなで思い出を話し合ううちに悲しみが小さくなり、あなぐまさんにお礼が言いたくなるよに変わっていったという意見が出ました。一人では悲しみは消えないけれど、みんなで話すうちにあなぐまさんの思いに気付いていったのかと考えました。」
- 「皆さんは、どう思いましたか？」



<話し合いを深める広める活動>

- ・青い色紙にあなぐまともぐらの関係
- ・黄色い色紙にお礼を言いたくなった気持ちを記入する。

- ・掲示資料に各グループの考えが貼れるようにした。
- ・話し方・聞き方を確認した。
- ・自分の考えと似ているところ、聞いてみたいところなど、話し合いを深めていく聞き方の確認をした。

25
(23)

◎「なぜ、悲しみが消えていったのか。」について理由を発表できるように指導した。

評 登場人物の気持ちを想像しながら読んでいる。 【思】(発表用色紙, 発言)

手 4~5人で分担をして発表する際、発表できない児童には、一緒に読んだり、発問をしたりしながら考えを伝えられるように支援した。

手 季節、森のみんなと話したり、聞いたりすることのよさ、あなぐまの思いはどうだったのかを助言した。

<もぐらの気持ちの変化>

- ・悲しかったが、森のみんなで話し合うことで、お礼が言いたくなった。

(理由)

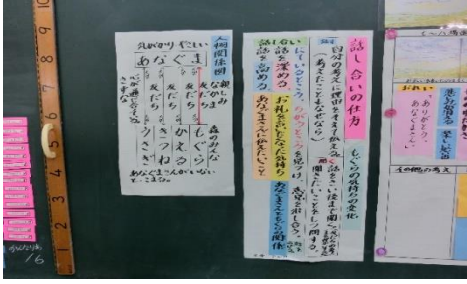
- ・あなぐまが誰に対しても優しくずっとそばについていてくれて教えてくれたから。
- ・もぐらにとって、あなぐまは特別な存在である。
- ・一生消えないあなぐまさんとの時間・思い出・のこしてくれたプレゼントだから。

<あなぐまともぐらの関係>青い紙

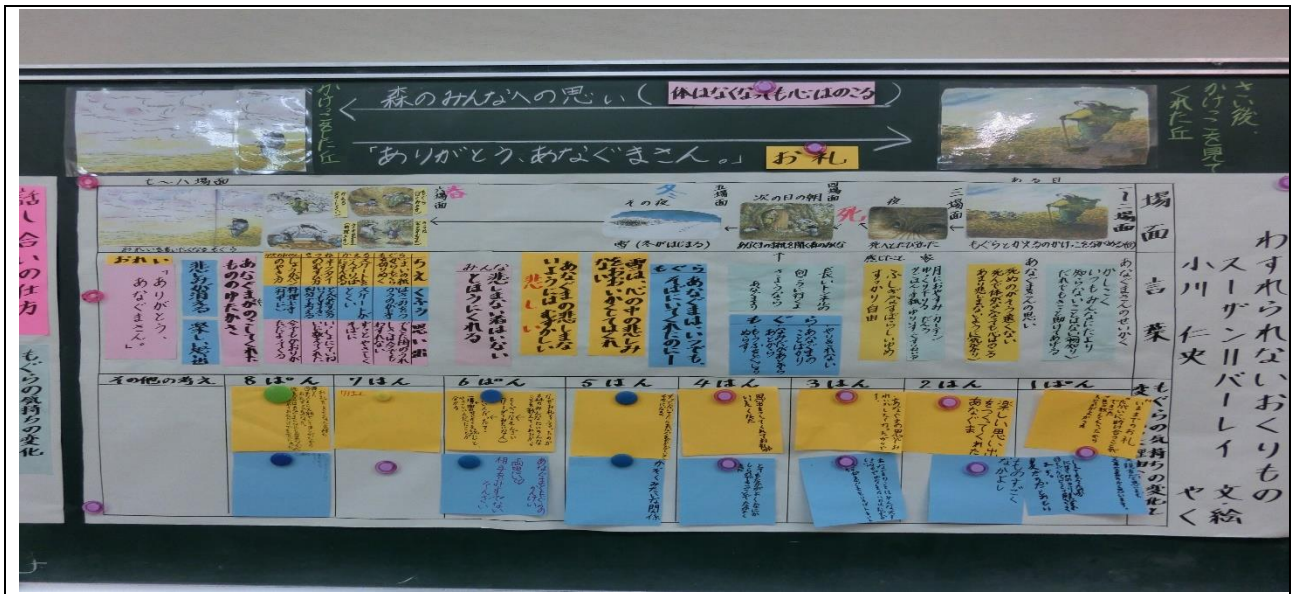
- ・家族・友達・大親友・他の動物よりも思いが深い関係。
- ・両思い、特別な存在。
- ・お互いに思い合っている関係。

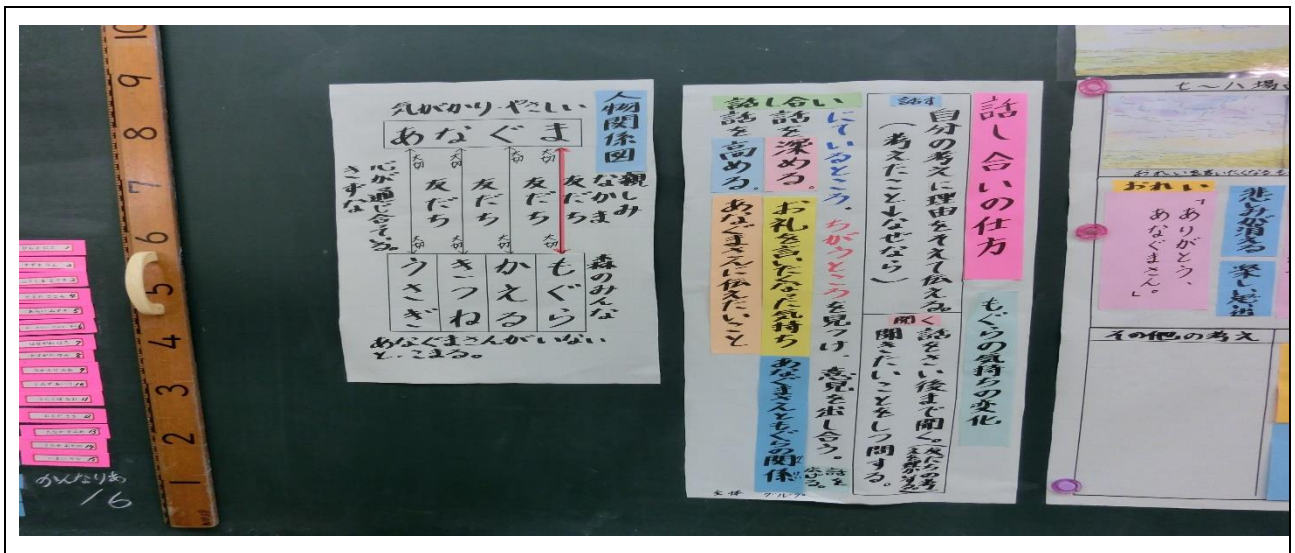
<お礼を言いたくなった気持ち>

- ・あなぐまの気持ちが伝わったから。
- ・あなぐまが残してくれた宝物をみんな、協力していくと言いたくなったから。

<p>4 話し合いをもとに自分の考えにもぐらの気持ちの変化を付け足したり、考えをまとめたりする。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、「ありがとう。あなぐまさん。」の台詞の後に言葉が続くとしたら何を伝えたいのか考えることを確認する。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の考えに話し合ったことを付け加えるなどをして、もぐらの気持ちの変化を書くよう伝えた。 ・本時の学習でわかったことや考えたこと、友達のよさなどを振り返るように確認した。 ・挿絵と台詞を見せながら、もぐらが丘で言ったお礼の言葉には、どんな気持ちが入められているか考えていこうとする意欲付けを行った。 	<p>5 (3)</p> <p>2 (1)</p>
--	---	-----------------------------------

(4) 板書





5 本時の指導 (7/9)

(1) 目標

- ・登場人物の気持ちの変化を想像し、考えを書くことができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。


④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

自分の考えを相手に伝えるためにこれまでの学習してきた誰に何をどのように伝えるのか伝え合い活動の前に確認を行う。また、ワークシートには自己評価できるように振り返る項目を入れて次の学びにつなげていく。

(3) 展開

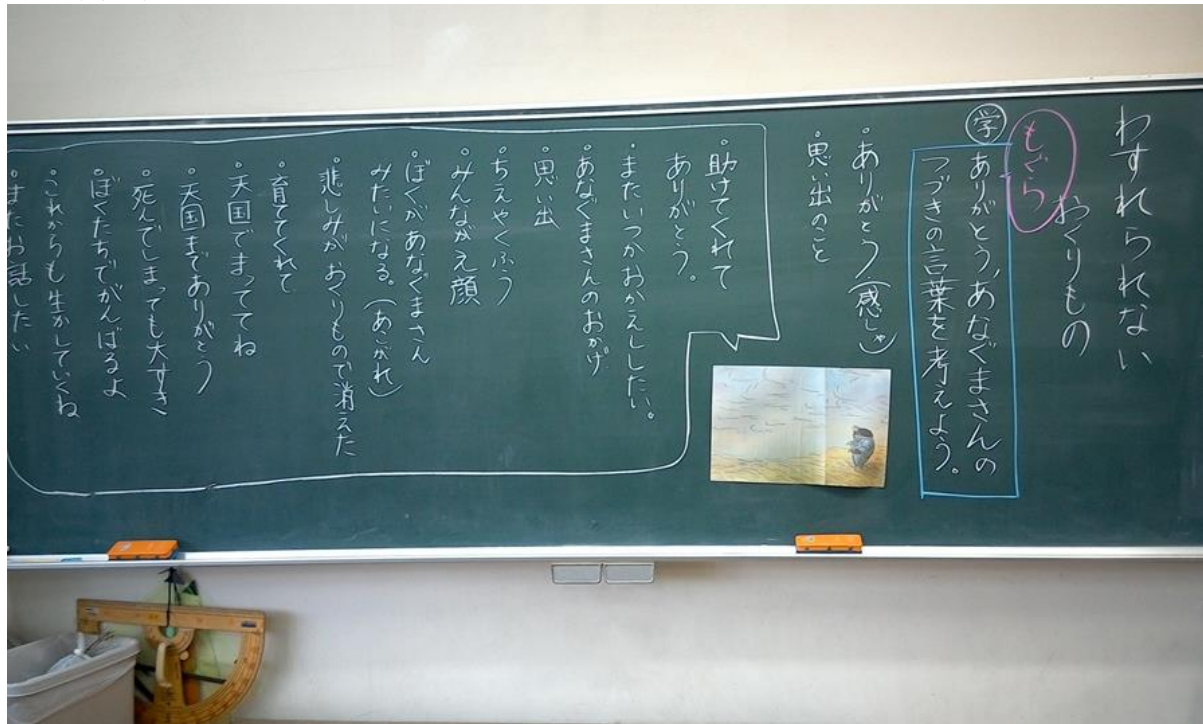
◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学習内容	授業の実際と考察 実際の児童の様子	時配 <small>◎は実際に かかった時間</small>
1 前時までの学習を確認する。 2 本時のめあてを確認する。 もぐらが言った「ありがとうあなぐまさん」の続きの言葉を考えよう 3 音読をする ・P125L10 みんなだれにも～から音読の一人読みをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の雪が消えたこと、あなぐまがのこしてくれたもののゆたかさのおかげで、森もみんなの悲しみが消え、また楽しい思い出を話せるようになったことを確認した。 ・全体で学習問題を確認し、どのように書くのかイメージがもてるようにした。 (あなぐまに何を伝えたいのか) ・感謝の気持ちを伝えたい。 ・ありがとうの気持ちを伝えたい。 ・思い出のことを伝えたい。 	5 (5) 2 (5) 5 (0)

<p>4 「ありがとう、あなぐまさん」に続く言葉をもぐらの気持ちになって考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなぐまさんが死んでしまって悲しかったけれど今は楽しくみんなで話をしているよ。 ・あなぐまさんが教えてくれたおかげではさみを上手く使えるようになったんだ。今度はみんなに教えてあげようかな。 ・あなぐまさんがたからものをのこしてくれたからみんなでかなしみをのりこえることができたよ。ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの吹き出しに、「ありがとう、あなぐまさん」の続きに合う言葉を書くように指示した。 ・机間指導を行い、何をあなぐまから教わったのか感謝の気持ちが書けるように声掛けをした。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出を残してくれてありがとう ・ぼくがあなぐまさんみたいになるね ・天国で待っていてね </div> <p>評 登場人物の気持ちになって続きの言葉を考え、伝え合い、考えを深めることができる。【思】(ワークシート)</p> <p>手 ワークシートに書けていない児童には、これまで学習した掲示物やノートをもとに考えが書けるように助言した。</p> 	8 (10)
<p>5 ペアになり、考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて、似ているところや違いを見つけながら伝え合った。また、相手の意見を聞き、自分の考えにない意見であれば書き加えた。 ・伝え合い活動の仕方を確認し、似ているところに青で線を引き、付け足しを赤で行うことを児童に示した。 <p>評 登場人物の気持ちになって続きの言葉を考え、伝え合い、考えを深めることができる。【思】(発表)</p> <p>◎ グループで意見を交換し、自分の意見との相違点を考え、意見を深めた。</p>	8 (10)
<p>6 全体の場で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あなぐまさんへの続きの言葉を発表し、自分の考えと似ているところや感じたことに注目し、全体で意見を共有した。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・これからぼくたちががんばるよ。 ・いつまでも見守っていてね。 ・天国に行ったらまた教えてね。天国で待っていてください。 </div>	10 (10)

7 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> もぐらのように他の動物たちも感謝の気持ちをもっており、動物の気持ちになっあなぐまへ手紙を書くことを伝えた。 	7 (5)
--------------	---	----------

(4) 板書計画



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

- ① 自ら「問い」を発見し、解決していく言語活動を設定する。
- 音読を毎時間、目標をもたせて行うことで、物語の内容が頭の中にインプットされ、そこから疑問や不思議に思ったこと、問いにつながる基礎を築くことができた。また、音読の記録をつけ、自己評価をすることで、意欲が高まった。
- もぐらの気持ちの変化を書くワークシートは、自分で叙述を抜き出したり自分の言葉でまとめられたりできるものと、文章を記述したものから考えられるものの2種類を選択してできるようにした。主体的に考えられるようにしたことで、自分の力で読み進めて書くことができた。
- 悲しみをグラフや、ハートマークなども使いながら気持ちの変化を可視化して示す児童も多かった。
- 第1次において、物語のあらすじやあなぐまと森の動物たちとの関係をまとめたことで問いをたくさん見つけることができた。また、第2次においても、掲示物を使って場面を振り返ったり相互に関連付けたりすることで、物語全体から読み解くことができた。
- グループの話し合いでは、話し合いの内容がずれないように視点をもたせたり、話し合いを深めたりするように色紙にまとめさせたが、話し合って意見をまとめるのに時間がかかってしまったことや、いろいろな考えを1つにまとめようとする姿から、メモ程度に書く形でもよかったと考える。
- まだ身近な人の死を経験していないこともあり、死を軽く考えがちであった。身近な大切な人がそばにいなくなってしまうたらと想像して悲しみの深さを考えさせたり、自分のこととして捉えたりすると想像しやすいと考える。
- 物語を読んでいく際に、登場人物がどうしてそのような言動をしたのか根拠を教科書から探す必要が

あったが、根拠を明確にする活動を取り入れることができなかった。学習する際には、根拠を明確にし、常に本文を基に考えをまとめる必要があると感じた。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
- あなぐまの死を受け入れ、お礼を言うまでにどれだけの時間と、気持ちの変化、あなぐまの思いを伝えられるように視点など、明確にすることでより深い話し合いができた。
- 伝え合いの活動でも、「話し方」「聞き方」を掲示し、目的を明確にすることで、話し合いを深めたり広めたりすることができた。
- もぐらの気持ちの変化を話し合う活動では、あなぐまともぐらの関係（青い色紙に記入）や、あなぐまへお礼を言いたくなった気持ち（黄色い色紙に記入）も考えるようにして、話し合いを深めたり広めたりすることができた。
- 伝え合い活動を活発にするために、意識させたい視点を明確に児童に提示する。誰に伝えるのか、何のために伝えるのか、どんな方法で伝えるのか、しっかりと伝えることができたか（振り返り）を確認することで、活発な伝え合い活動にすることができた。また、相手の意見と似ているところや異なる意見を聞きながら自分の意見に付け加えることで、よりよい活動にすることができた。
- 黄色い色紙と青い色紙に意見を書かせることは、話し合いの視点はずれなかったが、時間がかかってしまい、グループの話し合いの時間が長くなってしまった。日頃の授業でたくさん活動を取り入れ、話し合いを活発にしていきたい。
- 伝え合いの視点をもつことで、自分の伝えたい内容をより明確にすることができたが、自分の意見を持つことができていない児童がいたため、話し合い前に物語をしっかり読み解く必要があると感じた。